

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	医療型児童発達支援センターつくし園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による連携体制のもと支援を行っている。	様々な専門スタッフがチームを組み、子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行っている。年複数回のカンファレンスを実施し、各職種の評価を踏まえたアセスメントを行い、個別支援計画の作成・見直しを行っている。	今後も、多職種連携の強化を図るとともに、職員研修の充実により専門性の向上に努める。
2	保護者同伴通園の特性を活かし、家庭と連携し、情報共有を行っている。	日頃から保護者と子どもの様子を共有し、相談しやすい環境づくりを大切にしている。家庭と連携を図りながら、安心して通園できる環境づくりに努めている。	保護者支援の充実や情報発信の工夫を行い、より安心して利用できる体制づくりを進めていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援事業について、十分な実施体制を整えることが課題となっている。	兼務体制であるため訪問支援に充てる時間や人員確保が難しい状況がある。	訪問支援に関する専門性の向上や体制整備を今後より充実させていく必要がある。
2	保護者への情報発信や取り組み内容の見える化について、より工夫が必要と感じている。	制度改正や運営体制の変化に伴い、職員間での情報共有や役割・整理をさらに強化する必要がある。	今後も職員間での情報共有を大切にしながら支援内容の整理と発信方法の工夫を行う。
3			